

こまちなみシリーズ①

金沢市は「こまちなみ保存条例」を制定し、「まちの歴史を色濃く残した、ちょっとした良い町並み」を「こまちなみ」として守り、育て、その雰囲気を生かした風格あるまちづくりを進めている。そこで、これに倣って、広島における残しておきたい「こまちなみ」を探訪し、シリーズで紹介する。

横川駅界隈がおもしろい！

第一弾はJRと広島電鉄の横川駅界隈です。東京で言えば八丁堀、紙屋町、本通りが銀座、広島駅周辺が東京駅そして横川が新宿といったところでしょうか？規模は比べものになりませんが、ガード下の店舗、飲食店等など、ある種の猥雑感は似ているのではないのでしょうか？

駅周辺には4つの商店街があります。広島信用金庫横川支店を中心に戦前からの老舗専門店も残る「横川駅前商店街」。昭和28年に広島初のアーケードが設けられた「くろすろ一ど」、フタバ図書創業の地でもあり、駅に近く人通りが絶えることはありません。くろすろ一どの東側、130mの小町並みは「星のみち」です。ここには飲食店が多く軒を連ね、昼からイッパイやって上機嫌の人も見かけます。夜になると路面に埋め込まれた星座の模様が浮かび上がります。昭和38年、山陽本線の高架化に伴って出来たのが「新宿商店街」。居酒屋系が多く、JR横川駅北口に近いため、夜になると仕事帰りの人でにぎわいます。



星のみち

横川の地名は太田川の本支流が南北に流れるのに対して、唯一横(東西)に流れる川があったことから付いたといわれています(太田川放水路整備で埋め立てられた)。「こまちなみ」もほとんど“横”、東西方向で幅4mの道を行き来するのは人と自転車、酔っ払って少々ふら付いても大丈夫なんです。ホントこんな小路、小道が少なくなりましたね。

店舗を構えているのは飲食系ばかりではありません。美容室、衣料品店、質屋、食料品、薬局など…。そして昨年6月には古本屋さんがオープン、その名も「本と自由」。店舗面積は広くはないものの映画、演劇など専門性の高い本が棚にぎっしり。コーヒーも飲めて、夜遅くまで店主と「文学論」を戦わす人もいます。

そして忘れてならないのが映画館「横川シネマ」、シネコンが主流の中であって昔ながらの雰囲気の館です。支配人の溝口徹さんは「一流館と競争しても客は来てくれない。質の高いドキュメンタリー中心に掛けている。お客は遠方からも来られるが、アクセスの良さに驚いておられる」、横川の町について「普段着の町ですね」と。横川商店街振興組合によると「30、40代の若い人から空き店舗はないか」との問い合わせも多いとのこと。

(編集委員 三宅恭次)

こまちなみシリーズ②

金沢市は「こまちなみ保存条例」を制定し、「まちの歴史を色濃く残した、ちょっとした良い町並み」を「こまちなみ」として守り、育て、その雰囲気を生かした風格あるまちづくりを進めている。そこで、これに倣って、広島における残しておきたい「こまちなみ」を探訪し、シリーズで紹介する。

可部夢街道が危ない！

広島市安佐北区可部では毎年10月頃、旧雲石街道一帯の古い町並みを散策するイベント「可部の町めぐり」があり、「可部カラスの会」を中心としたまちづくり市民グループが実施している。

JR可部駅から約1キロ北の旭鳳酒造までの街道沿いが会場で、江戸後期から昭和初期にかけて建てられた古民家や商家が多く残っている。可部の町は出雲・石見をつなぐ分岐点に位置し、太田川と三篠川の合流点でもある。戦国期には高松城の城下町として発展し、近世以降は舟運業や鋳物業、山まゆ織、酒・醤油の醸造などが盛んで、物資の集散地として商家町の性格を強めた。

市重要有形文化財の鉄燈籠や城下町の防御のための「折り目」と呼ばれる道筋、商家に残る格子や卯建など歴史と文化を感じさせる。この地区を「可部夢街道」と名付け、歴史散策に訪れる人も増え、ガイド役を務める住民グループ「可部夢街道もてなし隊」も活躍している。



可部の町並み



コミュニティサロン可笑屋

しかし、町のメインストリートが国道54号線に移って以来、商店の移転や人口の流出を招き、地区全体の空洞化が進行している。空き地が増え、駐車場に変わり、周囲にプレハブ風のアパートが建ってくると夢街道の趣も壊されていく。

道路は車がスピードを上げて通過し、安心して歩けない。歴史的な町並みを残し、散策者を増やすためには早急に対策が必要だ。可部バイパスも開通したことだし、通過交通は遮断して生活車のみの一方通行とし、歩行者優先の歩いて楽しい夢街道にできないか。また、「可部夢街道町並みづくりガイドライン」も作られているが、道路沿いの建物は地区住民の同意による建築協定等を結んで、旧街道の面影に少しでも戻す努力をして欲しいと思う。

古民家を改装した「コミュニティサロン可笑屋」がまちづくりの拠点となり、その周囲に残る古民家を中心として夢街道の復元が広がることを期待したい。

(編集委員 瀧口信二)

第13号(平成26年9月15日)

〇こまちなみシリーズ③

草津まち歴史の散歩道（広電・草津駅の周辺）

◆ 歴史と「草津まちづくりの会」の活動

地域住民の崇敬する草津八幡宮は今年、創祀1420年を迎え、5月に厳粛なうちにも盛大なお祭りが行われました。このような古い歴史のある町に残る歴史的文化遺産を生かしたまちづくりをしようと、平成10年に結成したのが「草津まちづくりの会」です。

この地域は原爆の影響は爆心地から4.7km離れていた為、爆風による大きな影響はあったものの火災などの発生は無く、多くの神社仏閣や古い町並みそのまま残りました。江戸幕府の五街道に次ぐ重要な街道の一つの西国街道、近世の山陽道が町の中を通過しており、西国大名の参勤交代や幕府代官などが往来していました。

「草津まち歴史の散歩道」は、この西国街道を中心とした地域を対象としています。この様な私たちの歴史と文化資産を生かした活動が認められ、平成16年には「第9回



広電・草津駅周辺は“草津まちの宝”
赤の道が西国街道（旧山陽道）

広島まちづくりデザイン賞」を広島市長より受賞し、平成18年には国土交通大臣より「まちづくり功労賞」を受賞しました。

◆ 「来て見て食べて草津うまいもん市場」(3月の第2日曜日)

全国的に有名な広島カキ発祥の地であるカキのみならず、町の三大産業である魚類及び練り製品(蒲鉾が中心)各業者の協力を得て、盛大なイベントとなっています。特に魚市場の荷受会社2社の協力で行っている「大マグロの解体ショー」は圧巻です。是非一度見てください。

◆ 「草津まちオープンミュージアム」(9月の第1土・日の2日)

我々の会発足以来、毎年開催している年中行事の中のメインイベントです。町全体をミュージアムに仕立て、造り酒屋で聞く“酒蔵コンサート”。お寺で聞く“和のコンサート”。広電草津駅のホームで見る“ステーションギャラリー”。練り物の実演販売など盛り沢山の行事が来訪者を満足させています。

(今年は9月6日・7日に終了しました)

◆ 「除夜の鐘ラリー」(年末12月31日の深夜から)

町にある四つの寺の梵鐘を撞いて、一年を振り返り新しい年を迎える行事です。四つの寺のスタンプが揃うと心ばかりの記念品を進呈しています。最近では除夜の鐘を撞いて、その足で氏神様である草津八幡宮に初詣するコースが出来、大晦日の夜の町の賑わいを創出し新しい風物詩となっています。



天保年間創業の小泉酒造、
今も宮島の御神酒を製造



創祀1,420年を迎えた草津
八幡宮、けんか神輿が有名

ご要望があればガイドクラブのメンバーが「まちガイド」を務めています。昨年のガイド実績は30回で690名の方々のガイドを務めました。このような活動は我々だけでは不可能です。町内会をはじめ地域の各種団体・企業などが、サポーターとして大きな力となっていることを申し添えます。

草津まちづくりの会 世話人代表 宮川秋三

問い合わせ先 西区・草津公民館 TEL (082) 271-2576

第14号(平成26年11月15日)

○こまちなみシリーズ④

海田まち歴史の散歩道 (JR・海田市駅の周辺)

JR山陽線海田市駅の北側を西国街道が通っている。広島城開城により、城を挟んで廿日市と海田市は物資の中継地となる。またこの地は広島城から京・江戸への第1番目の宿駅として本陣である御茶屋や脇本陣等が置かれ、江戸時代を通じて広島藩の蔵入り地でもあった。

街道沿いには参勤交代の大名が宿泊する御茶屋跡や家老等が泊まる脇本陣跡があり、江戸時代に幕府公用の荷物の輸送役を務めた千葉家は昔の姿のまま健在である。

古い街並みが連続的には残っていないが、格子や虫籠窓を備えた古い様式の町家や所縁のある神社仏閣等が点在し、宿場町の往時を偲ぶことができる。



赤の道が西国街道(旧山陽道)

また街道の中心部には海田町役場や公民館、保健センター、郵便局等の役所が集まり、安芸郡の政治・経済の中核的な位置を占めている。

・**広島県重要文化財「千葉家書院」**

千葉家は江戸時代を通じて天下送り役・宿送り役・町年寄などを務める。屋敷は江戸時代中期の建築様式を今に伝え、玄関は入母屋造り、座敷は数寄屋風書院造りである。庭園も広島県名勝に指定されている。

・**三宅家住宅**

約200年前の建築で江戸時代の面影がよく残されており、当時の宿場の中でも町家を代表する屋敷である。

これら由緒ある屋敷が残ったのは昔ながらの役場等が近くにあり、今でも人の賑わいがあるからであろう。

現在、海田町役場の移転問題が話題になっている。JRの立体事業計画が暗礁に乗り上げているため、役場移転もとん挫しているが、①現在地近く②海田市駅南口③海田町エリア中央部の3か所が候補に挙がっている。

広島市との合併問題も潜在的に残されているので難題であるが、②か③が選択されれば、他の地区同様に西国街道は急速に寂れることになろう。観光地として活かすには可部地区のように古民家を改装した茶店（交流サロン）を設けて、例えば団子や羊羹や饅頭等、新しいスイーツを海田名物として売り出してはいかがか。

平成23年にスタートした「**西国街道・海田市ガイドの会**」は歴史的資源を後世に残し伝え、それらを活用したまちづくりを目指している。毎月第4土曜日に定期ガイドを開催し、5人以上の団体の申し込みがあれば、希望日に随時ガイドを行っている。その他にJRふれあいウォーキングや歴史講演会、西国街道の清掃活動など。息の長い地道な活動に期待したい。

*西国街道・海田市ガイドの問い合わせ：海田市町企画課 kikaku@town.kaita.lg.jp

(編集委員 瀧口信二)



県重要文化財「千葉家書院」



三宅家住宅

筆者撮影

〇こまちなみシリーズ⑤

廿日市市・地御前の古い町並み ～巖島神社の外宮・地御前神社の門前町～

地御前神社から広島方面に、JRの踏切を渡って地御前小学校を過ぎると古い町並みが始まる。町屋特有の袖壁などを持つ平入り2階の家屋が多く、僅か100m程度であるが、今も昔ながらの景観が部分的に残っている。

特に近年は古い町屋が姿を消し、建替や駐車場などへの転用が多くなったと聞く。本陣や津和野藩・船宿があった「廿日市宿」の古い面影が薄くなっているだけに、廿日市市に今も残る貴重な町並みといえよう。

<門前町の成り立ち>

巖島は島全体が聖地であったので、対岸に巖島遥拝と祭祀のために建造物が建てられた。そこから発展したのが巖島神社の外宮と称される地御前神社である。本殿は仁安3年(1168)に建立され、宝暦10年(1760)に再建されて現在に至る。地御前の町屋は地御前神社の門前町として発展していった。

旧西国街道は廿日市宿から宮内串戸を経て山沿いに大野に至り、海沿いの地御前は通っていなかった。このため地御前神社へは村道「地ノ御前道」を利用し、道筋には町屋が軒を並べ門前町が賑わった。

この「地ノ御前道」に沿って名所・旧跡等も沢山あり、興味深い町並み探索が出来る。旧街道の道標、正行寺の不動明王坐像(室町時代作)、西向寺の蓮華松(樹齢300年)、小林千古生誕地の碑(明治の洋画家)、大歳神社(地御前の氏神)など多数。また、宮島の管弦祭が年々寂れてゆくなか、地御前神社の管弦祭は大変賑やかで人出も多く、地域の祭りとして定着してきたという。

<町並みの保存活用>

地元公民館を拠点とした「地御前郷土文化保存会」という市民活動があるが、町並みの保存活動の取り組みはない。

廿日市は巖島神社と密接な関係を持ち、西国街道に面した宿場町及び港町として、近世では佐伯郡の中核的存在として発展してきた。このため歴史的な文化資源が極めて多い。宮島に止まることなく、これらの優れた資源の保存活用について廿日市市(歴史まちなみ推進室)のより積極的な取り組みを期待する。



地御前神社・門前町の街並み



古い平入り2階建て町屋



西向寺と蓮華松



江戸時代の地御前神社
「巖島図会」より

* 門前町へは車の場合、地御前神社・鳥居前に駐車して東に歩く。広電宮島線「地御前駅」からはJR線路を渡って徒歩にて直ぐ。

* 門前町から約200m東の地御前市民センター(公民館)に立ち寄り「地御前史跡MAP」(無料)の入手をお勧めする。TEL (0829) 36-2360

(編集委員 高東博視)